ビブリア

発行　いわき市平上荒川字長尾３０
福島工業高等専門学校
編集　図書委員会　ビブリア編集部
平成 ９年７月１５日

福島高専図書館報　第８３号

巻　頭　言

２００５年万博が愛知県瀬戸市海上（かいしょ）の森で行われることになったとのニュースである。そのテーマ「新しい地球創造・自然の叡知」とモナコの現地まで行った環境保護団体(?)の扱いの記事を見ていて、日本における科学技術の「ありよう」を考えるmotivationを与えられたような気になった。

日本には「進んだ技術を暮らしに取り入れれば、生活は豊かになり、もっと幸せになれる」という技術革新に対する「楽観論」が社会の根底にあるようである。

技術と国民生活の様々な関係を国民生活白書にまで取り上げたような、技術革新を抵抗なく受け入れる国は他にはない。例えば、１９世紀初頭のイギリスのラッダイト運動（機械打ち壊し運動）にも見られるように、技術進歩は職を奪い、個人・家庭の幸せを犠牲にするという「悲観論」ないしは「反技術主義」といえる伝統が西欧にはある。

確かに技術革新は同時に人々の生活をも大きく変える生活革命の面を持っていることは否定できない。にもかかわらず、変化を必ずしも好まない人間が、なぜ技術開発を行うのか？　人間にとって望ましい技術開発、望ましくない技術開発、してはならない技術開発、そして技術開発の義務とは何なのか？

そもそも技術とは？　技術には何時何処で、誰が行っても同じ結果が出る再現性と、論理的にプロセスを説明できる伝承性が必要であり、この双方がないのが技能だという言い方もある。

また、技術と科学の対比では、科学は問題解明志向で、問題解決志向が技術だとも言われるが、基礎技術、応用科学という言葉もあるように、科学と技術とは不可分になっていくようでもあり、技術開発のみが、商品を対象にしているのでもなさそうである。

万国博覧会のテーマさえ「環境」が取り上げられる昨今であり、われわれの技術開発も子孫に重い「ツケ」を残さない持続可能な開発（サスティナブル・ディベロップメント）をサポートするものでありたい。

《校長　岩松 幸雄》

目　次

巻頭言（岩松 幸雄）……　1
新任の先生方の「私の薦める一冊」……　2
学生による「私の薦める一冊」……　5
図書館便り……１１
お知らせ……１２
感想文募集のお知らせ……１３

<新任の先生方の「私の薦める一冊」>

「人生に消しゴムはいらない」
藤本義一／佼成出版社　　定価1400円

機械工学科教官　佐東 信司

私の研究上の恩師より「転んでもただでは起きるな、石ころでも掴んで起きろ」と言われた事が何時も心の書庫に入ってます。石ころと思っていても価値のある鉱物のときもまれにあるのです。また、学生が卒業研究で単純なミスから大失敗を起こすこともありますが、叱ることはしませんでした。何故？人生には予期せぬ事が常に待機し、その予期せぬ事から「新発見」の誕生があるからです。即ち、これまでの過程（人生）を冷静に振り返る事が重要で、自己確認となり、人生の糧（かて）となるからです。

この本の題目「人生に消しゴムはいらない」は自分の生き方と共鳴し、すぐ入手しました。学生諸君の人生経験では少し重い内容かと思いますが、著者の経験を中心に人生のあり方を解析し、自分の姿・心を素直に表現しております。人生には欲望・岐路・愛・死がつきものであり、また、生きがい・依りどころなどを求めて生活しております。この中で「頭は大きな金庫だ」、「世の中のことを全部苦労と思えば苦労になる」、「生きていると思ってはいけない、生かされていると思ってやらなきゃ」とのメッセージがあります。

自分を第三者として見つめる事が、生き方や考え方を向上させてくれる鍵となるはずです。

自分の生き方に自信を持つ、自己を見つめる、自己の進路を決める、その時の気持ちのあり方を会得するために、流し読みしては如何でしょうか？あなたの人生に今直ぐきく特効薬ではありませんが、漢方薬のように時間の経過とともに心に訴えてくる心理薬になるかも知れません。一度、処方箋を飲んでみませんか？

（１）「電気工学ポケットブック」
　　電気学会編／コンパクト版
　　オーム社 1994.10
（２）「心の処方箋」　河合　隼雄／
　　新潮社　1993.5
（３）「脳から見た心」　鳥山重／
　　NHKブックス　1992.8

電気工学科教官　永木 猛弘

第一に、学生諸君が各自何か疑問を持ったとき、座右に置いて即座に解決、又はその糸口を掴むのに役立つ本として、電気工学で扱う全分野を網羅し、内容も充実した（１）を推薦したい。自宅や寮で本書を調べ、図書館や専門書店やインターネットのデータベース検索等で更に詳しく調べるとよい。コンパクト版はそのことを考慮して編集されている。また巻末の数学公式集や総合索引は低学年生には今後習う専門教科のガイドとして、高学年生には履修済み教科の整理、復習に役立つと思う。

私たちは時には学習する気が起こらない時（なに？　いつもだって？）や、反対に何かの拍子で猛烈に学習意欲が湧いてきて、勉強したくなることも経験する。ヒトを形容して「感情に制御されたコンピュータ」と表現することがあるが、この感情つまり「心」と、その源である「脳」にかかわる問題といえる。これらは２１世紀最大の研究課題の１つだと認識されている。この分野で２冊紹介したい。

（２）は、対話などを通して「心」の問題に取り組む臨床心理学の視点で、著者の多くの体験をもとに、いわば「心に関する格言」をまとめたものである。読者の年齢に応じて、それぞれ興味深く、又気楽に読めると思う。

一方（３）は、医者である著者が、多くの脳疾患の患者の臨床例を基に、「脳と心」の関係を分析研究した結果で、専門外の人にも解りやすく著してある。神経心理学の立場からの「心」へのアプローチである。両者共に自分自身について、又人間について理解を深めるきっかけを作ってくれる好著だと思う。

なお、一部既に利用されているが、学習、研究他、あらゆる種類の情報が

ネットワークを通して、電子図書館などの膨大なデータベースから直接個人的に検索、利用出来る時代になりつつある。それに備えて、日頃からＰＣによる情報検索と、その質や信頼性の見極め等にも慣れておくことを勧める。（平成９年５月２５日、官舎にて。）

「一般気象学」
小倉義光／東京大学出版会

物質工学科教官　天野 仁司

私たちは、常に大気の中で暮らしているのに、それがどんな機構でうごめいているのかということは普段あまり考えない。それでいて、「あしたの天気がどうなるか」ということは、農耕民族の私たちにとって最大の関心事であるから、気象現象への興味は誰の意識の中にも潜在的に存在するのではないだろうか。

私は以前、ロシア語の先生から「どうして高い所ほど寒いんですか」と聞かれたことがある。太陽に近い高い所ほど暑いのではないかと考えるのは、とても自然なことのように思えるが、実は誤りで、それどころか上空の気温は上がったり下がったりとかなり複雑である。残念ながら今は理系の学生でさえ地学を学ぶ機会が少なくなっているらしい。

ところで、皆さんはこの先生の質問に答えられるだろうか？　そればかりではない、「雨はどうして降ってくるのか」とか、「台風は.....　雷は....竜巻は.....」と疑問は尽きない。そこで、「うーむ」と考え込んでしまった人は、覚悟をきめてこの本を読んでみてはどうだろうか。覚悟をきめてとは、この本はそう生半可なことでは理解できないということである。読みこなすには、「予報士になろう」くらいの意欲が必要かもしれないが、読んでみると、意外な事実に驚くことが多々あるだろう。それに、天気図の見方が一変するのは請け合いである。

「聖書」
コミュニケーション情報学科教官　阿部 妙子

聖書を推薦します。星の数ほどある出版物の中でたった一冊だけというなら、2,000年の歴史をもつ古典中の古典、しかも現役のロングミリオンセラーという実績のあるこれしかありません。でも超大作で日本人にとって馴染み難い昔の地名や人名が多いので、パラパラとめくって気が向いたところから読むなんていうのも初心者には良いかもしれません。私など旧約の真ん中辺りにある”詩篇”という名前に惹かれましたが、長短150篇もの大詩集なのに花鳥や恋など詠んだものなどなくて、ちょっとがっかりしたものです。それは紀元前1,000年頃のユダヤの王ダビデをはじめ敬虔な人たちの信仰の告白と神の恩寵を詠ったものだったのです。

かつて異国の地に一人で暮らした私は様々な難問に悩み、辛く感じたことがありましたが、そんなときBeatlesの"Let it be"を口ずさんで、神の御心に全てを委ねるのが常でした。ふと聖書に手が伸び、慰めや励ましの言葉をいつも見出しては安堵したのを覚えています。中でも最も代表的な聖句と言われる'すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。'（マタイの福音書11:28）が好きでした。

ところがそんなことを繰り返すうちに、もう一つ大きな発見をしました。それはその国の人たちの生き方や考え方のルーツが聖書の中にあるということです。欧米人の心の中に、街並みや、絵や音楽など、いえ至る所に何千年たった今もなお聖書が息づいていて、旅行好きで欧州の芸術に憧れていた私は、見るもの、聞くものの全てが数倍も面白いものに感じられるようになったのです。

近い将来国際的に羽ばたく高専生には、是非英語で読むことを薦めます。

なおパソコンが好きな人はCD-ROM版もある上、「J-ぱいぶる1st」でマルチメディア的なアプローチをして、図表やMIDI音楽に合わせて美しいカラー写真のスライドショーなどを楽しむのも一案です。

「化学の法則４５話」
北原文雄・竹内敬人／講談社、1991年

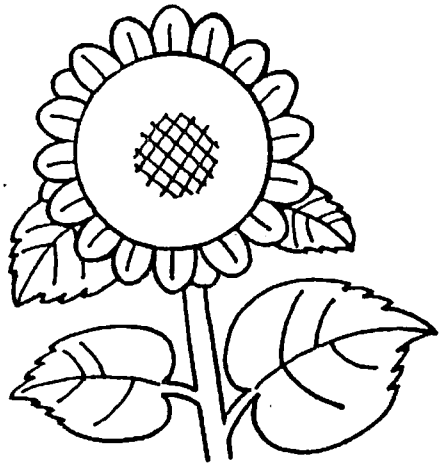
一般教科教官　中原 雅則

推薦したい本が沢山あるので、その中から一つ挙げて下さいと言われても大変困ってしまいます。時間をかけて充分検討してみた結果、ここでは上記の本を推すことにしました。

この本の中で私が印象に残ったのは、「化学には二つの顔がある。‥‥その一つの顔とは、‥‥文化としての化学である」という箇所です。下線部は、化学そのものに対する著者ら独特のとらえ方を示しています。この独自の思想ともいえるものに基づき、基本的な化学法則を一つ一つ取り上げながら丁寧に書かれている点が、サイエンスを愛する者には共感を与えるのではないかと思います。

この本および著者である竹内敬人は、私にそれまでの研究重視から、教育の方を重視して大学あるいは高校で化学教育を実践してみようという動機を与えてくれました。工学関連の勉強、研究、開発、教育を通じて、その間を何度も行き来しているうちに、結果としてサイエンスが少しずつ身近なものとして感じられるようになった気がします。

最後に、皆さん、本質をとらえて書かれた本を沢山見つけて下さい。



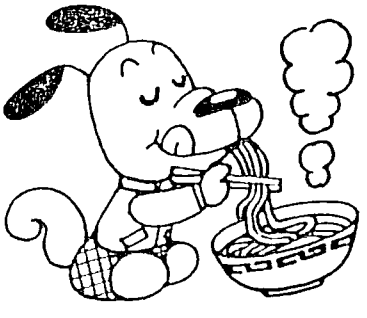
「事件」
大岡昇平／新潮文庫(1980年)　640円

一般教科教官　藤澤 宏樹

私は、自分の読んだ本を他人に紹介する（時に自慢する）のが大好きである。だから本当は１０冊でも紹介したいところだが、「１冊」ということなので、それに従うこととしよう。

本書は推理小説で、いわゆる法廷ものである。小学校の同級生と結婚しようとした１９才の青年が、結婚に反対する彼女の姉を刃物で刺し、殺人と死体遺棄の容疑で逮捕された。　初めのうちは単純に考えられていたこの事件が、実は複雑な様相をもっていて、意外な事実が次々と明らかになる。読者はスリリングな展開にぐんぐん引きこまれていくにちがいない。しかし、これだけなら普通の推理小説と変わらない。本書はただの推理ものではない。物語を読みながら、実際の刑事裁判の手続が自然に頭に入ってしまう仕掛けになっているというもうひとつの醍醐味（だいごみ）を忘れてはならない。訴状や冒頭陳述、最終弁論、判決など、本物ではないかと思うほどの迫力をもって描かれている。とくに、証人尋問でのやりとりの描写は圧巻である。つまり、本書は、１冊で推理と勉強の両方できてしまうという「スグレもの」なのである。

本書は621円(税別)である。621円(税別)というと大体ラーメン１杯分くらいの値段だろうが、それで丸２日は十分楽しめる。ラーメンだったらどんなに頑張っても１時間もつまい。１食抜いてでも読むべきである。



<学生による「私の薦める一冊」>

「羅生門」　芥川龍之介

機械工学科１年　安藤 幸一

「あなたの一番好きな小説は何ですか。」と尋ねられたら私は「羅生門」と答えるだろう。

その作品は天災が相次ぎ、政治状態が悪化した平安末期を時代背景とし、社会不安の中での一人の下人の心理の変化を巧みに描いている。

主人公の下人は主人から暇を出され、職を失ってしまい、明日の生活のために盗人になろうと考えるが悪を積極的に肯定する勇気が無く、思案に暮れていた。ところが、一人の老婆と出会い、彼女の行為を目の当たりにして激しい憎悪を覚える。

私はこの下人の心の移り変わりをとても面白く感じる。初めは盗人に成り下がるつもりでいたのが、許すべからず悪を見て正義を振りかざす。人間は所詮エゴイズムの固まりで自身の存在、存在理由を確認しようと日々何かに励んでいる。

もし自分が下人の立場になったら今の世の人々は盗人か餓死かどちらを選ぶのだろうか。

「血族」
シドニィ・シェルダン／アカデミ出版

電気工学科１年　雲藤 健

私が、是非皆さんにお薦めしたいのは、アカデミ出版のシドニィ・シェルダン作「血族」です。普段から私はあまり本を読んでいなかったし、本を読むのがあまり好きではありませんでしたが、ある古本屋でこの本を見かけ、友達が熱中して読んでいたことを思い出して、どんなものかと買って読み出したら、自分も熱中してしまいました。読む人を絶対に飽きさせないストーリー展開、サッと読んだだけでも想像できてしまう情景描写など、シドニィ・シェルダンの別の作品にも言えることですが、本当に読み始めたら止められない程のおもしろさです。この作品は元々はアメリカで出され、大人気となった本ですが、日本はもちろん世界的にも人気があります。そのぐらい認められている程すばらしい作品だと思います。皆さんも機会がありましたら、ぜひ読んでほしいと思います。

「エイズと闘った少年の記録」
ライアン・ホワイト／ポプラ社

物質工学科１年　紺野 浩子

私が紹介する本は、ポプラ社から出版されたライアン・ホワイトの「エイズと闘った少年の記録」です。

この本はライアンが実際にエイズに感染してからの死の恐怖や、孤独、差別や偏見に立ち向かい闘った記録を彼自身が書いたものです。

ライアンは生まれて３日目にして重い血友病だと診断されました。血友病というのは、血が止まらなくなる病気で、不治の病とされていましたが、彼が生まれる少し前に発明された「ファクターⅧ」という血液製剤のおかげで、彼はスポーツなども普通の人と同じようにすることが出来ました。

けれども彼は、今まで彼の命を救ってきたファクターにエイズ患者の血が混入していたことによって、エイズウィルスに感染してしまったのです。

それが原因で、彼は、他の子供に病気が移るのを警戒した学校側から登校を拒否されました。しかし彼は、裁判に勝ち登校する権利を取り戻すことに成功しました。

そんな差別や偏見との闘いに勝った彼ですが、やはり病気には勝てず、闘病の末、１８歳でこの世を去りました。

日本では、まだまだこの本に書かれているような差別や偏見が多く見られると思いますが、ライアンがエイズとの闘いを通して私たちに残してくれた、生きる勇気と、誤りを正そうとする勇気を多くの人に持ってほしいと思い、この本を推薦しました。少しでも多くの人に差別や偏見について考え直してもらえたら良いと思います。

「青い山脈」　石坂洋次郎／新潮文庫

建設環境工学科１年　吉田 昌由

私は、「青い山脈」という本を紹介します。まずこの作品は、女は男のそばを歩かず、ちょっと後ろを歩く、女と手をつなごうものなら社会からは、軽蔑を受け、学生同士がつきあうことも許されぬという時代のことです。この時代に一人の女学生（新子）と、それを助ける女先生（島崎）、医師（沼田）、男子学生（六助、富永）とが繰り広げる青春の話です。

ある女学校に新子が転校してきます。ふとしたことで、新子は六助という男子学生と出会います。この二人はたびたび二人で会っていたところを女学生に見つかり、新子は校長室に呼ばれ、説教を受けました。しかし新子は、自分は悪くないと訴えたのですが、聞いてもらえなかったのです。そのことが学校中に広がり、新子は嫌がらせを受け始めました。そのうち話が大きくなり、会議が開かれることになったのです。そこで新子は島崎先生、六助、富永に相談をしました。そこで４人は会議で親や先生たちを納得させ、自分たちの正しさを証明しました。

この時代の暗く、じめじめした封建的な社会の考え方を新しい方向から見つめ直し、人間的で民主的な社会を作り上げています。

「ソフィーの世界--哲学者からの不思議な手紙」
ヨースタイン・ゴルデル／ＮＨＫ出版

ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ情報学科１年　髙橋 康孝

僕の推す一冊は、「ソフィーの世界--哲学者からの不思議な手紙」です。この本はＮＨＫからの出版で、著者名はヨースタイン・ゴルデルです。

この本のジャンルは一応哲学書となっていますが、物語形式で書かれていて、他の哲学書と比べてだいぶ読み易くなっています。書き始めは、普通の物語と同じで、むしろ好感さえもてます。

主人公はソフィーという少女で、その少女のもとに一通の手紙が届くことから始まります。『あなたはだれ？』という文面の手紙の影響を受けて、自分と、その他すべてのものについて疑問を持ちます。そして哲学者との哲学講座が始まります。様々な経験を経て知識を得ながら成長していくソフィーたちが知るものは一体…。

面白いので、是非読んでみて下さい。

「封神演義」　講談社

機械工学科２年　助川 昌弘

私が薦める本は、封神演義です。この物語は、中国の歴史ファンタジーです。少年誌でマンガになっているので知っている人は多いと思います。

この封神演義は中国の三大怪奇小説の一つである。この物語の特徴は、とにかく登場人物が多いということです。登場人物の数は約四百、しかもその中のほとんどが命を落とすのです。途中で誰が誰だかわからなくなってしまうでしょう。また、少し文が難しいので、読んでいて書いてあることが分からなくなってしまうこともあるでしょう。多少読みにくいかもしれませんが、封神演義の原作に興味がある人、また、他の怪奇小説を読んだ人は講談社から出版されているので一度読んでみて下さい。

「黒猫」
エドガー・アラン・ポー／ 集英社

電気工学科２年　佐藤 洋介

私の押す一冊は、集英社より出版されている「黒猫」だ。この本の著者は、エドガー・アラン・ポーである。この本は、「黒猫」だけでなく、「リージア」や「アッシャー館の崩壊」などの短編集からなっている。

私がこの本を推す理由は、ポーの描く物語には、言葉にできない不思議な魅力があり読む者をひきつけるからだ。しかし、こんなところで私がどんなことを書いても、私の言いたいことは、伝わらないだろう。百聞は一見にしかず、ポーの不思議な魅力は、読めばわかります。

「戦国武家事典」
稲垣史生／ 新人物往来社

物質工学科２年　中柴 美希

私の推す一冊は、「戦国武家事典」です。本書には、幕府の仕事から武芸・練兵、さらには城郭のことまで幅広く、詳細に書かれています。歴史のことばかりで堅苦しい内容ではなく、弓の張り方や婚礼諸相のように、現代でも役に立ちそうな事柄も多く、興味を引かれる部分が盛りだくさんです。

著者は稲垣史生で、ＮＨＫの「竜馬がゆく」「勝海舟」といったドラマの時代考証を担当するなど、歴史のジャンルでは大変な活躍を見せている人物です。

出版社は新人物往来社、わかりやすい歴史の本を沢山出版しています。

本書を読んでから、ＮＨＫの大河ドラマなどを見ると、より一層、楽しみを満喫できるのではないでしょうか。また、今人気の「るろうに剣心」というマンガを見る際にも、細かいところで役に立つことがあるのではないでしょうか。

「適手」
ディック・フランシス／早川書房

建設環境工学科２年　渡部 真規子

これは競馬をテーマにした推理小説です。主人公は元チャンピオン・ジョッキィ、シッド・ハレーという人物で、馬の脚を切断するという何とも残忍な犯罪を調べていくという物語です。

話の内容はとてもおもしろいものなのですが、この主人公、シッド・ハレーという人物がまさに英国紳士のなかの紳士といったかんじで、とてもかっこいいのです。

ディック・フランシスの書いた３０冊くらいの競馬シリーズのなかにも、「適手」のほかに、シッド・ハレーが登場するのが２つあります。私はまだ「適手」１冊しか読んでいませんが、このシリーズをこれから機会があればたくさん読みたいと思っています。

私はべつに競馬ファンというわけではありません。むしろ競馬に関しての知識はほとんど「０」に等しいほどです。

そんな人が読んでもおもしろい「適手」、ぜひおすすめします。
（シッド・ハレーは本当にかっこいいですよ。）

「のっぽのサラ」
パトリシア・マクラクラン／福武書店

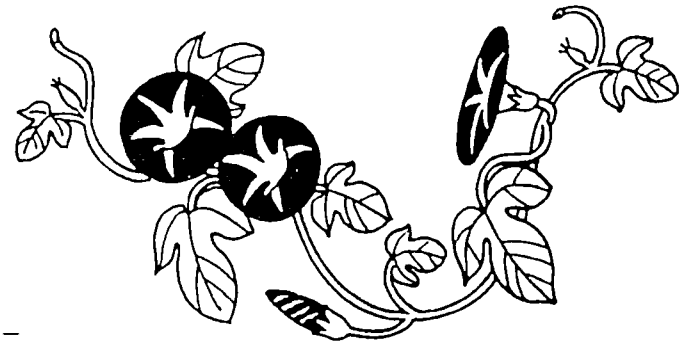
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ情報学科２年　鈴木 麻衣子

この本を書いたのはアメリカ人のおばさんです。ちょっと天地真理に似てます。でも、天地真理みたいな性格ではないと思います。こんなに優しくてさわやかで、柔らかな物語を書くのですから、きっと違います。

ところで、この物語はアメリカの児童文学の最高の栄誉といわれているニューベリー賞を ’８５年に受賞しています。賞を受けているから良い本だというわけではありませんが、ニューベリー賞は結構、信用できます。この賞を受けた本を何冊か読みましたが、どれも素敵な本でした。ですから「のっぽのサラ」も自信を持ってお薦めできます。

なにしろ児童文学ですから、字は大きくすいすい読めてしまいます。でもこの本はゆっくり、じっくり。アメリカの広い草原を、のっぽのサラやアンナの表情やケイレブや父さんの仕草をちゃんと思い浮かべて読んでほしいのです。文章のあちこちからにじみだしている作者の巧みで、優れた表現の仕方を感じてほしいのです。素朴で綺麗な文章は実に見事だと思います。

ということで、お暇なときにでも読んでみてくださいね。読んだ後、優しい気持ちになれます。



「庵野秀明スキゾ・パラノエヴァンゲリオン」

作者なし(対談をまとめた本のため)／太田出版

機械工学科３年　橋本 正人

庵野秀明を知りたければこれを読め！と、大まかな説明はこれだけだが、内容はとても深い。庵野監督がどんな気持ちをエヴァに込めたか、どんな気持ちでエヴァを創ったのか、それを監督本人が語っている。さらに、貞本義行を含むスタッフ達が監督の人物像を浮き彫りにしていく。この本はエヴァに込められたメッセージを読み取るのに大いに役立つ。

エヴァファンならずとも、今、300億円の経済効果を起こしたエヴァを作った人達がどんな人間なのかを知る事はとても意義あることだろう。それで少しでも興味が持てたなら、あらためてアニメの方を見てほしいと思う。どんな切っ掛けにしろエヴァを最後まで見てほしい。そうすればきっと何かを感じられると思う。ただ確実に言える事は、大勢の人達が、その何かを感じたと言うことである。このエヴァの人気がそれを物語っている。私も何かを感じ、そのことで人生が大きく変わった、救われたと思った。ダメ人間といえど一人の人間？が人生変わったと言っているのだからヒマつぶしにでも友達から借りて見てほしい。特に自分に自信の無い人やトラウマを持っている人には見てほしいと切に思う。

エヴァを見るのに当たってオススメしたい本がある。アダルトチルドレン関係の本だ。この言葉はもともと、アメリカでアルコホリック患者を親にもった人達を指す語だったが、最近では、完全に機能していない家庭で育った人達の事を指すもっと広い意味で使われている。エヴァの登場人物はコレに当てはまる人が多数出てくる。やる気がない人や他人と接するのが苦手な人は、小さい頃のトラウマに起因していることが多い。だから、エヴァに興味がなくても、コレを読んでもう一人の自分と向き合って乗り越えてほしいと切に願う。

「強力伝」
新田次郎／小学館

電気工学科３年　廣川 出海

この本は４つの作品を収めた本で山岳小説ではあるが、登山家だけが主人公ではなく、荷運びの強力、気象観測の技師、職員も主人公の話もある。どれもがモデルの人物、事件があり、心情や雰囲気が出てしまったがためにノンフィクションからフィクションになったような印象を感じた。読んでいると、登場人物の近くにいる霊のような感じを受けるほど情景が緻密に書かれている。まるで映画かテレビを見るようだった。

「科学の言葉雑学事典」

久保田博南／講談社ブルーバックス

工業科学科３年　村山 英司

まったく関係ないと思っていたことが、実は密接につながっていることを知れば、そのことに興味がわくでしょう。人の興味が記憶にとって大切であるのは、言うまでもないことです。これは英単語のような“ことば”にもいえることです。

この本は、主に科学の基本単語を抽出して、それらの語源を中心にまとめたものです。この本の大きな特徴は、何気なく使っていたことばも、その語源発生までさかのぼってみると、意外なオモシロさが発見できることです。

例えば、「オーロラ」、「オーストリア」、「イースター」のような誰でも知っていて一見関係なさそうな単語がありますが、これらはみな「東」につながる、つまり英単語にも親類関係があることがわかります。

また、「水銀」、「水星」、「水曜日」のような日常使っている日本語も、全て昔の商業の神の名前「マーキュリー」にちなんでいます。さらに「左」という単語が多くの国で悪いことの意味としてとらえられており、これが左利きが少ないことの原因の一つであると考えられていることは、あまり知ら

れてはいないことです。このように、あまりつながりのなさそうな単語が意外なところで結びついていることをこの本は述べています。
この本のオモシロさを知ることができたら、化学用語や天文用語のような英単語の見方が変わってくるかもしれません。

「創竜伝」　田中芳樹／講談社

建設環境工学科３年　磯上 幹夫

私が推す本は、田中芳樹の「創竜伝」です。この本は講談社のノベルスで10巻、文庫で8巻まで発売しています。
この物語は、常人離れした能力を持つ四人の兄弟、実は中国のある神々が現代に転生した存在、であるが、日本や世界を裏で支配する者達と戦いながら、自分達の正体や、前世以来の敵等を知り、地球はおろか月までも舞台にしての活劇を繰り広げます。
私が見どころに思うのは、痛烈極まりない皮肉や、暗くなりがちな超能力者のはずなのにやたらと明るく、笑いすら誘うようなストーリーです。
また、忘れてはいけないのが、あとがきがなく、そのかわりに登場人物による座談会です。本編とはまた違ったおもしろさがあり、非常に笑えます。
特にお薦めなのが文庫版で、ノベルス版、及び文庫版の座談会が収録されています。
非常におもしろいです。一度、読んでみてください。

「ジャンボ・ジェットの飛ばし方」
非日常研究会／同文書院出版

ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ情報学科３年　石井 梨絵

緊急事態にも動じない最高マニュアル。もしかしたら、あなたの身の上に降りかかるかもしれない厄災から逃れるための実用講座。そして、世界で一番使いようのない実用書。突如として非日常の世界へ放り込まれた場合を想定し、意図的な偶然性のもとにその場に存在する輸送機関を用いて、危機的状況からとりあえず脱出するためのマニュアル・レポートとされたこの本は、ジャンボの他に戦闘機や戦車、Ｆ１マシン、潜水艦など計１５の乗り物の操縦法が書いてあります。また、想定されたアホらしいシチュエーションも、御新造（人妻）との愛の逃避行だったり、美少年が人面蜘蛛になったり、著者の趣味が問われるものになっており、読みごたえ抜群だと思います。

「時計じかけのオレンジ」
アントニィ・バージェンス著

機械工学科４年　秋元 一志

この物語は、アレックスという１５歳の少年が、近未来で管理社会の退屈で刺激のない日々の中に、超暴力という楽しみを見つけ、仲間と共に夜の都会をさまよっては、盗み、破壊、暴行、殺人を繰り返すというものだ。彼は手の打ちようのない「悪ガキ」なのだが、一方で交響曲に情熱を燃やすという審美的な興味を持っており、モーツァルトやバッハを聴きながら、男の顔を靴で踏みにじったり、皮をはぎとられて悲鳴をあげている女性に暴行を加える幻想を描き、音楽のクライマックスになると、自分も性的興奮のクライマックスに達するという、一風変わった少年である。彼が刑務所で、政府によってこんな極悪人が善人に見える程の人体実験をされてしまう中に、管理社会の不気味さ、醜悪さを描いたというとてもリアルで、怖い小説であります。
また、この小説は、専門用語がかなり多く、映画では、６０年代のモンドな家具やポップアート的なコラージュが楽しめます。

「殺戮にいたる病」
我孫子武丸／講談社文庫

電気工学科４年　渡辺 剛史

神経が正常な人は読まない方がいいですよ。って全然紹介になってませんね。
どういう小説かというと、難しくて、暗くて、深くて、えぐくて、じめじめ

して、めまいがするようで、顔面から血の気が引いて行くようで、夢に出てきそうで、救いようがないような世界の小説です。
グロテスクな表現が好きな人は読んでみるのもいいかもしれませんね。あと、１８歳未満のあなた、読まないでおいた方が幸せでしょう。（一部例外を除く）
何を隠そう、この私もだい５章までしか読んでないんだから。読む気が失せるし。
う一ん、全然紹介になってないか。でも、読む人が読めばそれなりに主題が見えて来るんじゃないかな？私には耐え難い内容ですが。
そうそう、同じ著者の「８の殺人」「０の殺人」「メビウスの殺人」は、明るくて、すがすがしい（？）推理みたいな小説ですから、この「殺戮に～」を読んでいっちゃった人（謎）はそれを読んでみるのも良いかもしれないですね。
最後に、この本の著者はスーパーファミコンのソフトで「かまいたちの夜」（チュンソフト）のシナリオを書いた人です。

「数理推理　光速解法テクニック」
鈴木 清士著　実務教育出版

土木工学科４年　滝澤　聖

公務員を目指す人にお勧めの一冊がこれ。この本は公務員試験の数学のテストで出されるようなクイズ感覚の問題とそれに対する挿し絵入りのわかりやすい解答がついている。
この本のもっとも良いところは題名にあるように、「光速の解法テクニック」が身に付くことである。ここでの「光速」というのは「閃き」のことで、問題を見てその問題を別の方向から考えることによって一瞬で回答を導き出せる技術を学べるのである。その「閃き」による解き方は誰もが「なるほど」と感心し、「喜び」を得られるものだと私は思う。
それらの問題の一例として、次の問題をあげる。
「２人の易者　Ａ、Ｂがいて、Ａは的中率７０％で見料が７万円、Ｂは２０％で２万円である。今、ある青年がＰ社とＱ社のどちらに就職すれば幸せになれるか占ってもらう時、Ａ，Ｂどちらに占ってもらうとお得か？」という問題である。
答え「Ｂ」。その理由はそれぞれで考えてもらいたい。.....ヒントとしては、Ａのはずれる確率は３０％、Ｂは８０％である。

「邪眼鳥」　筒井康隆著　新潮社

ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ情報学科４年　箱崎 沙織

平積みにされたハードカバー。その表紙に堂々と印刷された「復活第一作!!」の文字。その一言を何年待ったことか。４月２６日。筒井康隆、３年ぶりの新刊、「邪眼鳥」が書店に並んだ。
はたしてそれは、長かった空白に育まれ、大きくなりすぎてしまった期待を裏切らず、それどころか、読後の興奮は、許容量をはるかに越え、収まり切れなくなってしまった。
筒井氏の作品は、好き嫌いがはっきり分かれるので、普段はむやみに人に勧めないのだが、その「あふれてしまった」部分がもったいないので、むやみに人に勧めてみる。
活字になった言葉には、無駄なものなど一つもない。一見意味もなく散らばっているような「点」は最終の一ページで急に意志をもったかのように繋がり、「線」となる。鮮やかに。
あまりの無駄のなさ、計算しつくされたような日本語の羅列に、ただ唖然とするばかり。
筒井作品のサンプルの様に、「筒井らしさ」の要素が濃縮された一冊。
私は今、とにかくこの「邪眼鳥」を久しぶりに、誰かに勧めたくて仕方ない。

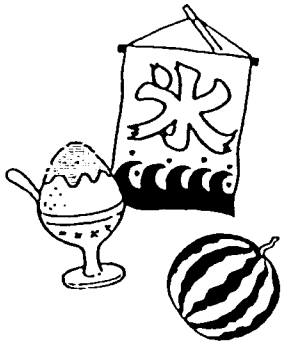
図書館便り

☆学年学科別図書帯出冊数（平成８年４月～平成９年３月）

学　年	１年	２年	３年	４年	５年	合　計
機械工学科	３９	２１９	６１０	２７５	２７８	１４２１
電気工学科	９８	１９８	７３５	２６６	４４４	１７４１
物質工学科	８１					２１５５
工業化学科		４４８	７８３	５１４	３２９	
建設環境工学科	１０５	１６９				１１２７
土木工学科			２４１	２５６	３５６	
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ情報学科	４５	１６６	２９３			５０４
合　計	３６８	１２００	２６６２	１３１１	１４０７	６９４８

図書貸し出し冊数ベスト１０（平成８年４月～９年３月）［学年は昨年度のもの］

１	遠藤　健太郎	（電気工学科３年）	１３７冊
２	村山　英司	（工業化学科２年）	１１８冊
３	磯上　幹夫	（建設環境工学科２年）	６３冊
４	佐藤　健一	（土木工学科５年）	６１冊
５	諏訪　里子	（工業化学科５年）	５７冊
６	広瀬　篤志	（電気工学科３年）	５４冊
７	菅野　敬之	（電気工学科１年）	４８冊
〃	沢田　拓巳	（工業化学科３年）	４８冊
９	服部　直明	（工業化学科３年）	４７冊
１０	櫨木裕次郎	（電気工学科５年）	４５冊



お知らせ

臨時開館について

○ 開館期間　　８月１８（月）～夏期休業終了日まで。

ただし、土・日曜日は閉館とします。

○ 開館時間　　午前の部　　８時３０分～１２時００分まで。

午後の部　１３時００分～１７時００分まで。

※　夏季休業期間中は「臨時開館日」を除き館内所蔵図書の点検及び整理のため閉館します。

特別貸出について

○貸出手続き　・・・・　７月１０日（木）～７月１８日（金）

○貸出限度冊数　・・・　５冊まで

○貸出期間　　・・・・　７月１９日（土）～夏期休業終了日

卒業研究生特別貸出について

○卒業研究生は、所定の手続きを行えば、別枠として５冊の貸出が認められます。

その他

○購入希望図書がありましたら、最寄りの図書委員を通じて、あるいは、直接図書係に申し込んで下さい。

感想文募集のお知らせ

今年度も、学生の皆さんに、より読書に親しんで頂くための一環として、恒例の「読書感想文コンクール」を下記の要領で実施いたします。
ふるって参加して下さい。

記

1．形　式	１６００字程度の読書感想文 手書きまたはワープロ文書。 （フロッピー提出も認めますが、 ＤＯＳ文書であることとします。）
2．募集部門	以下の二部門で募集します。 ・低学年の部（１～３年生対象） ・高学年の部（４、５年生対象）
3．提出締切	平成９年　１１月末日
4．賞　品	低学年、高学年の部とも１～３位まで図書券が贈られます。
5．その他	・感想文は図書館事務室に提出すること。 ・それぞれの部門の第１位の感想文は、次回発行のビブリアに掲載する予定です。 ・応募は一人一編までとします。

平成９年度図書委員会

図書館長　　井上　和人（工業化学科）
副館長　（ビブリア担当）　大槻　正伸（電気工学科）

委員　八木　康雄（機械工学科）　村田　進（電気工学科）
小林　靖明（物質工学科）　髙橋　邦雄（建設環境工学科）
布施　雅彦（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ情報学科）　大森　房子（一般教科）
岡部　久雄（庶務課長）　黒田　祐一（図書係長）
大谷　敦子（司書）　薄井　久美子（図書係）

学生図書委員

５Ｍ	早川 幸恵	５Ｅ	大髙 裕幸	５Ｃ	渡邊 邦幸	５土	澁谷 健二
			*小松 敦史				鈴木 隆裕
４Ｍ	秋元 一志	４Ｅ	石井 宣幸	４Ｃ	成田 圭介	４土	瀧澤 聖
	山崎 健司		渡辺 剛史		渡邊 幸次		箱崎 寿幸
４コ	*大島 優佳						
	*小関 祥子						
３Ｍ	鎌田 清貴	３Ｅ	芳賀 和美	３Ｃ	加藤 誠子	３建	*磯上 幹夫
	高橋 輝圭		緑川 健志		村山 英司		
３コ	佐藤 拓						
	松本 智明						
２Ｍ	助川 昌弘	２Ｅ	赤津 直人	２物	小野 弘恵	２建	五十嵐 義明
	山下 真樹		馬目 高志		中柴 美希		*渡部 真規子
２コ	森田 千絵						
	山岸 幸						
１Ｍ	安藤 幸一	１Ｅ	雲藤 健	１物	*堀江 大心	１建	三瓶 美穂
	志賀 敬之		根本 良男		堀越 あゆみ		我妻 高大
１コ	*髙橋 康孝						
	千代 理絵						

（＊印はビブリア編集委員）

編集後記

「なんで自分は本なんか読むんだ？」などと、ふと思ったことはありませんか？もちろん、「知識を吸収するため」「人生に役立てるため」などという立派な理由も当然ありますが、本が好きな人には（本にもよりますが）そんな立派な理由はなんとなく胡散臭いですよね。

私の場合など、いろいろと理由は考えられますが、「読みたいから」（とくに大きな失敗を体験できるのがいいなあ。現実でこんなバカな体験していたのではかなわんからなあ。）などという、立派とは言いがたい理由が心のどこかにあるような気がしています。

それは、「何故食べるのか？」と問われて「生命維持のため」などという大袈裟な理由でなく「お腹がすいているから」というようなものでしょうか。

さて、もうすぐ夏休みです。是非美味しい本に出会って下さい。

それではよい夏休みを!!